及川 洋樹
おいかわ・ひろき
オイカ創造所一級建築士事務所
多摩美術大学大学院コミュニケーションデザイン研究領域修了。1999年アトリエオイカ創設、2002年オイカ創造所設立。地域工務店支援活動「日常アートの家」のススメを行い、農家、画家、建築家の視点、手段で住環境や商業空間、まちのトリートメントを全国で展開する。自ら修繕工事に携わった麻布の集合住宅「平成の長屋」代表理事、渋谷区代官山活動団体「だいかんやまぐみ」理事、一級建築士
東京都港区　TEL：03・6455・7541　http://www.oica.jp

近年、「わがまち」を良くしようとする試みが各地域で活発化しています。個人的に厳しい意見を述べます。もし現在、財政赤字を抱えていたり、限界集落と言われるようなまち（地域）で、何の試みもしていないとすれば、そこには未来がないのだと思います。人口、世帯数減少の影響も受け、衰退の道をたどることは自明です。インフラの管理費などを考えても、多くのまちは縮小を避けられない状況にあるのかもしれません。こうした時代背景において、とりわけ民間主体のまちおこしやまちづくりへの取り組みは、地域にとって重要な意義を持つものとなっています。

この連載で繰り返し述べてきたように、「地元」や「町内」と言われるような小さなまちで、日ごろから住宅の建築を通じて街並みや景観づくりの一翼を担っている工務店は、まちおこしやまちづくりに対しても潜在的に大きな影響力を持っています。一人ひとりの顔が見えやすく、意見も伝わりやすい単位のまちで、地元工務店が住民の声を吸い上げながら、行政とも連携してまちの元気を生み出すことに貢献するのが理想形です。行政も、そういった地域工務店が持つポテンシャルや可能性に一目置いているように感じています。

立ち上がった工務店社長

今回は、岡山市北区にある足守地域で、わがまちの活性化に奮闘する地元工務店のえびすや（えびすや建築工房）の取り組みを紹介します。備中足守・木下藩二万五千石の陣屋跡地をはじめ、かつての面影を今に伝える素晴らしい歴史的資産を抱えている地域ではありますが、全国の数多くの地域と同様、高齢化や若者の地域外への流出に歯止めをかけられず、かつて多くの人でにぎわっていた商店街はシャッター通りと化し、空き家も目立つ状況です。

ここで立ち上がったのが、このまちで生まれ育ち、今も工務店業を営む、えびすやの森安章さんです。えびすやは先代（森安さんの父）が食料品店や建材住宅設備の卸業、不動産業などを営みながら、まさに地域と共に歩んできた会社です。森安さんの代になり、住宅事業を本格的に手掛け始め、現在では高性能なエコ住宅を地域に提供しています。実は、私は２年ほど前に「住みよい家と住みよいまちづくりに貢献したい」と考えていた森安さんとのご縁をいただき、地元の人たちとも交流しながら、共に活動をしています。

そこで今回は、足守地域で展開されているまちおこし活動の始まり（第０回）から現在に至るまでの「進化の過程」を綴ります。読者の皆様のそれぞれの地域での活動の参考になればと思います。まちおこし、まちづくり、地域ブランド化など様々な要素を含みますが、「最初は何から行動すれば良いのか」を伝えたいと考えます。

様々な分野の人が集う

こうした過程を経ながら現在は、森安さんが代表理事になり、一般社団法人として設立した「あしもり遊学舎」が主体となり、空き家の再生による民泊事業や蕎麦・有機野菜をベースとする飲食店業などの計画を具体化するフェーズに入っています。

第１回のセミナー「あしもりを考える会」の時には、現在も活動の核を担うコアメンバーの半数ほどが参加し、第２回で勢ぞろいしました。コアメンバーは、えびすやの森安さん、東京から参加の工務店仲間Ｔさん、森安さんの弟さん、地元の歴史家Ｓさん、農学士Ｎさん、元岡山大学サイエンティストＫさん、エンジニア兼自転車好きＫさんです。このほかにサブメンバーが数人いて、私もその１人になります。このように、様々な分野の人たちの参加があったからこそ、今の形になっているということが重要なポイントです。

足守地域におけるまちおこし活動の進化の過程

第０回	2016年7月	現地（足守地域）を見学・調査
第１回	10月	まちづくりセミナー「あしもりを考える会」実施
第２回	11月	自転車でまちを巡る「町の良いところ発見隊」実施、KJ法
第３回	2017年2月	空き古民家清掃、裏山探検、蕎麦作り、KJ法の続き
第４回	4月	地元桜の花見、コアメンバー岸本氏のプレゼン提案、SWOT法
第５回	4月	サイクリングコースの視察
第６回	5月	岸本氏マッピングパーティーの説明、サイクリングコースのマップ化、別団体「あしもり酒場」との合流会議、同時に「ももぞの学園」との出会い
第７回	7月	マッピングパーティーの実施
第８回	9月	コアメンバー中山氏による農学セミナーと蕎麦・有機野菜調理演習
第９回	10月	「あしもり遊学舎」活動の社会的な位置付け、「葦の森」展への参加表明
第10回	11月	「葦の森展」参加、「美味しいメニュー」開催
第11回	12月	町の活動団体について考える、NPO か一般社団か

■お知らせ　「コミュニティービルダー」募集

本連載では取材させていただくコミュニティービルダーを全国から募集しています。地元に根付き、地域住民との関わりを大切にされている工務店の取り組みを広く紹介したいと考えています。連載執筆・監修の及川さんと新建ハウジング編集部記者がおうかがいして取材させていただきます。お気軽に編集部（電話 026・234・1211、担当：関）までご連絡ください。

「人の縁」の連鎖がまちをつくる

街角に子どもたちの声が響く未来

［上］KJ法で短期・中期・長期の目標を整理
［下左］「町の良いところ発見隊」として自転車で地域を巡る
［下右］活動のもとになった「あしもりを考える会」の様子

KJ法でアイデアを集約

活動初期には、カードによってアイデア出しをしながら、各自の発想や意見を集約していく「KJ法」を採用しました。第２回で行った「町の良い所発見隊」の実施後、コア・サブメンバー全員でとことん出し合って書き出したアイデア・意見の数は200にも及びました。それらを模造紙に落とし込みながら取捨選択を行い、短期（すぐ行うこと）・中期（５年後までに行うこと）・長期（10年後までに行うこと）のカテゴリーに分けた目標表に入れ込んで整理しました。

ただ、もちろん最も大変なのは、整理した構想や計画を具体化していくことです。仕組みづくりや事業計画、収支計画といったもののほか、なによりも活動や事業を回していく組織体制を編成することが肝心です。そもそも地域に人材がいなければ成立しません。実際には、いかにして「人の縁」をつないでいくかということがカギを握っているのです。

実績を重ね
信頼・認知度を高める

森安さんの情熱は、様々な人材を引き寄せます。特に、自社が提供したドイツレベルの断熱住宅の施主・Ｋさんが、あしもり遊学舎のコアメンバーに加わってくれたり、足守の魅力にひかれて施主・Ｈさんが建築地を足守に変更したことなどは、まさに地域工務店がまちおこし・まちづくりを行うことの醍醐味ではないでしょうか。そしてそれは同時に、地域の未来を創造していくことでもあるのです。

私は関わった以上、この足守地域が魅力的なまちとなり、えびすやと共に活性化していく未来を見届けたいと思います。こうした「地元の元気の素」になるような地域工務店に、若者が参加（就職）し、まちや会社を盛り上げながら、地域の未来を築いていくエンジンになっていってほしいと願っています。森安さんは、自身が子どものころのように、「子どもたちの声が街角ににぎやかに響くまち」にしていくことを夢見ています。焦らず、諦めず、いろいろな人の助けを得ながら、コツコツと地道な活動を続けていくえびすや・森安さんのスタイルを読者の皆様の参考にしてほしいと思います。必ず未来が見えてくるはずです。